

に議論する場面は、残念ながらほとんどなかったと言えるであろう。

社会保障制度は非常に国民に身近なものであり、国民は日常生活の様々な場面で社会保障の給付を受け、サービスを利用しているにもかかわらず、また、少なからぬ負担を税や保険料の形で負担しているにもかかわらず、その全体像がどうなっていて、制度の改革が個人の人生活にどのように影響するのか、給付・負担両面での当事者としてきちんと関心を持って議論に参加する場面は、なかなかなかったのではないだろうか。

今般の社会保険庁の不祥事や長寿医療制度を巡る混乱は、極めて遺憾なことであり、国（厚生労働省）は自らへの国民の信頼回復のために総力をあげて努力すべきであることは言を俟たないが、他方で、今回のことは、社会保障がいかに国民の日常生活に直接大きな影響を持つ重要な制度であるかを、政治や行政当局、そして国民自身にも、改めて実感させるものであったということも言えるであろう。

今後、社会の高齢化が進み、負担の増加が避けられない中で、社会保障の機能を強化し、同時に安定的な持続できる制度にしていくためには、大胆な制度改革が不可避であり、そのような改革を実現していくためには、サービスの利用者＝受益者であり、同時に負担者でもある国民が、文字どおり当事者として議論に積極的に参加し、国民の目線で議論を進めていくことが必須である。

そのためにも、社会保障制度を、より分かりやすく、利用しやすいものにしていくとともに、社会保障に関する情報・データの開示、国民一人一人のレベルで社会保障の給付と負担を分かりやすく示すための社会保障番号制の導入検討を、国民の合意を得ながら積極的に進めていくことが必要である。

社会保障国民会議は、10ヶ月にわたり、現場の声、地域の声をできるだけ取り入れて議論してきた。現行の社会保障が抱える問題点を指摘しつつ、社会保障の機能強化のための今後の制度改革に向けた議論の土台を示し、社会保障国民会議は、この最終報告をもってその役割を終えることになる。

しかし、社会保障と国民のかかわりに終わりはない。当事者である国民の声が広く取り入れられるかたちで、この社会保障国民会議報告に盛り込まれた提案について、具体的な制度改革の道筋を明らかにし、当事者である国民が運用面での改善が行われているか、制度改革への取組が進んでいるか、引き続き監視し、意見を述べていくことは、この国の社会保障を守り、立て直していくために欠かせない。

社会保障は国民自身のものである。国民各位に、自身の社会保障を守るため、機会をとら

えて議論に参加していくことを願い、他方、行政には、国・地方を問わず、社会保障に関し国民の参加を可能とする場を設けていくことを提案し、報告の結びとしたい。

社会保障国民会議 最終報告  
参考資料(抜粋)

# 保育等の子育て支援サービスに関する課題・背景と解決の方向性


(注) 青・・・予算に関連 緑・・・制度改正 赤・・・通達等で対応



# 社会保障制度に関する 国民意識調査報告書

平成20年11月4日

# 目次

報告書内の記述について	
■SA■	単一回答
■MA■	複数回答
■FA■	自由記述回答
<p>分析軸のn数(回答者数)が、分析に耐え得る数を満たしていない場合(本調査ではn=50未満とします)、   を表示しております。                      この箇所については、あくまでも<b>参考値</b>としてご覧ください。</p>	

## ◆ Contents ◆

1.調査概要	2
2-1.社会保障制度総論について	3
2-2.各制度間の満足度比較 年代別	5
2-3.各制度間の対策緊急度比較 年代別	6
2-4.社会保障制度の問題点 年代別	7
3-1.雇用・年金制度について	8
3-2.公的年金制度に対する意見 性別/年代別	9
3-3.公的年金・雇用支援策に関する問題点・改善点	10
4-1.医療制度について	11
4-2.医療制度に関する優先課題 性別/年代別	12
4-3.医療制度に関する問題点・改善点	13
5-1.介護制度について	14
5-2.介護保険制度に関する優先課題 性別/年代別	15
5-3.介護保険制度に関する問題点・改善点	16
6-1.少子化対策について	17
6-2.少子化対策への関心度 性別/年代別	18
6-3.少子化対策の負担のあり方 性別/年代別	19
6-4.少子化対策に関する優先課題 性別/年代別	20
6-5.少子化対策に関する問題点・改善点	21
参考:Web一対比較評価法について	22

## 1-1.調査概要

◆調査目的： 社会保障制度の課題、今後のあり方について国民の意識を詳細に分析する

◆調査方法： インターネットWeb定量調査

◆調査対象： 20歳以上 男女

◆エリア： 全国

◆回答者数： 2,000人（内訳は人口動態構成比に極力近似）

◆調査項目：  
・社会保障制度に対する関心度/満足度  
・満足している/緊急に取り組むべき分野  
・社会保障制度の問題点  
・各制度の給付と負担のバランスについて  
・各制度の高齢者と現役世代の負担のあり方  
・各制度における優先課題  
・各制度の問題点/改善点

◆実査時期： 2008年8月29日（金）～2008年9月1日（月）

◆調査機関： ヤフーバリューインサイト株式会社

	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男性	147	183	154	176	304	964
女性	141	178	152	179	386	1,036
計	289	361	306	355	690	2,000

※平成19年10月1日現在 総務省 統計発表資料より性別、年代別の構成比に準じて割付

## 2-1. 社会保障制度総論について

24

### 関心度

■ 関心がある	48.6
■ まあ関心がある	40.8
■ あまり関心がない	7.9
■ 関心がない	2.8
全体(n=2,000)	

- 現在の社会保障制度に「関心がある」人は約半数の49%。「まあ関心がある」を含めると、全体の89%の人が関心をもっている。
- 性別では、「関心がある」人は女性よりも男性の方が4ポイントほど高くなっているが、「関心がある」・「まあ関心がある」の合計では、男性87%、女性91%と女性の方が高くなっている。
- 年代別では、年代が高くなるほど関心も高くなる傾向。「関心がある」・「まあ関心がある」の合計でみると、20代が78%に対して、70代は97%と20ポイント近くの開きが見られ、世代間での関心度の差が顕著。

### 満足度

■ 満足している	0.3
■ まあ満足している	26.9
■ どちらともいえない	28.3
■ やや不満だ	34.6
■ 不満だ	1.9
全体(n=2,000)	

- 現在の社会保障制度に対して「満足」・「まあ満足」と答えた人は8%にとどまる。
- 「不満だ」と回答した人は35%で「やや不満だ」を含めると全体の63%の人が不満を抱いている。
- 性別では、大きな差異は見られない。
- 60代以上で「満足」・「まあ満足」と答えた人は10%~20%と他世代よりも高め。一方、30代~50代は7割近くの人が不満を抱いているという結果。

### 給付と負担のバランス

■ 負担を減らす	14.7
■ 負担の増加はやむを得ない	22.7
■ その他	3.7
■ 従来どおりの負担	8.2
■ 大幅な負担の増加もやむを得ない	8.2
全体(n=2,000)	

- 「給付水準を保つために、ある程度の負担増加はやむを得ない」と考える人が最も多く43%。大別すると、負担増について反対が37%、容認が46%となっている。

### 高齢者と現役世代の負担のあり方

■ 現役世代負担	18.3
■ 現在のまま	42.3
■ 双方の負担の増加	9.6
■ 高齢者負担	7.4
■ わからない	7.4
全体(n=2,000)	

- 「高齢者と現役世代双方の負担の増加はやむを得ない」と考える人が最も多く42%。

### 社会保障制度のあり方

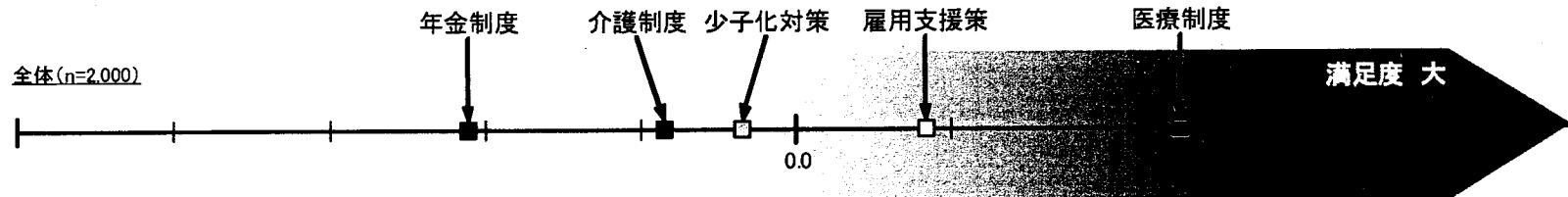
■ 社会保障にはあまり期待しない	14.8
■ なるべく社会保障に頼りたい	63.3
■ 足りない部分は社会保障でみてもらいたい	14.2
■ わからない	8.7
全体(n=2,000)	

- 「基本的には自分でなんとかするが、足りない部分は社会保障でみてもらいたい」と考える人が最も多く63%。社会保障制度に頼りたいと考える人は、78%で8割近くにのぼっている。



## 2-1. 社会保障制度総論について

### 各制度間の満足度比較



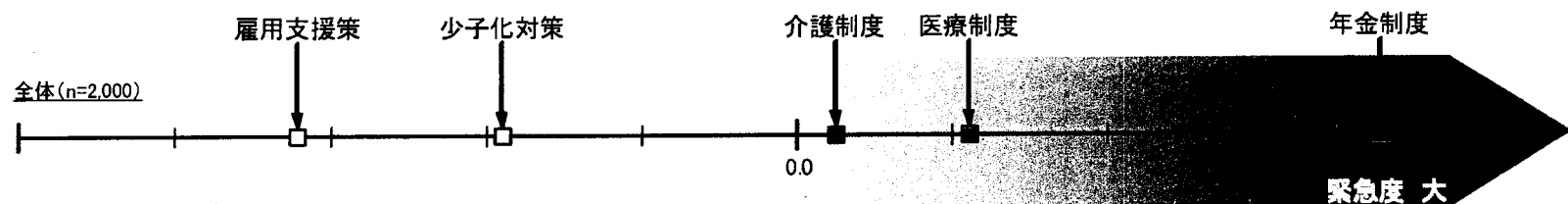
軸上の「0.0」は回答者による選択率がちょうど5割であることを意味しており、「0.0」より右側が選択率が5割より高く、左側が5割より低いことを意味している。つまり、「0.0」から右側に離れるほど、より多くの回答者がその選択肢を選んだことを表す。

<※ここでの分析手法(Web一対比較評価法)については、P22~を参照。>

- 「年金制度」「医療制度」「介護制度」「雇用支援策」「少子化対策(子育て支援)」の5つの制度・支援策から2つずつランダムに提示し、“**より満足している分野**”を選択してもらい、その評価とそれぞれの距離感を確認した。
- 最も満足度が高かったのは、「医療制度」で、次点の「雇用支援策」を大きく引き離している。
- 続いて、「少子化対策」、「介護制度」となり、最も満足度が低かったのは、「年金制度」であった。

25

### 各制度間の対策緊急度比較



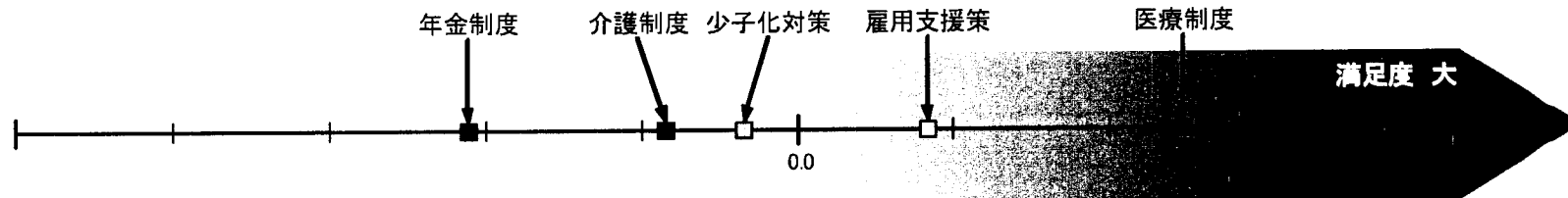
- 同様に、5つの制度・支援策の中で2つずつランダムに提示し、“**緊急に取り組むべき分野**”を選択してもらい、その評価とそれぞれの距離感を確認した。
- 上記、“満足している分野”において最下位であった「年金制度」が、対策を緊急に要すると考える分野としては、2番目の「医療制度」を大きく引き離しており、満足感を得られないと同時に危機感をもっている様子。
- 一方、“満足している分野”でトップとなった「医療制度」は、ここでも2番目に位置しており、ある程度満足しているものの、なお取り組むべき課題は残っているとの認識をもっている様子。

## 2-2.各制度間の満足度比較 年代別

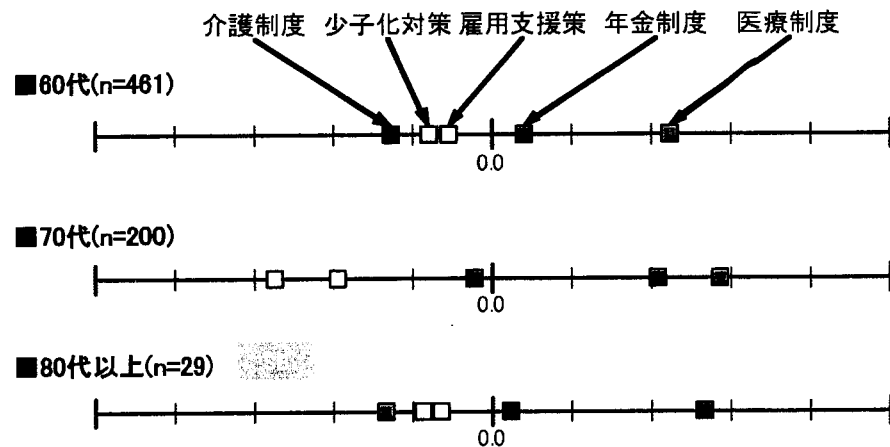
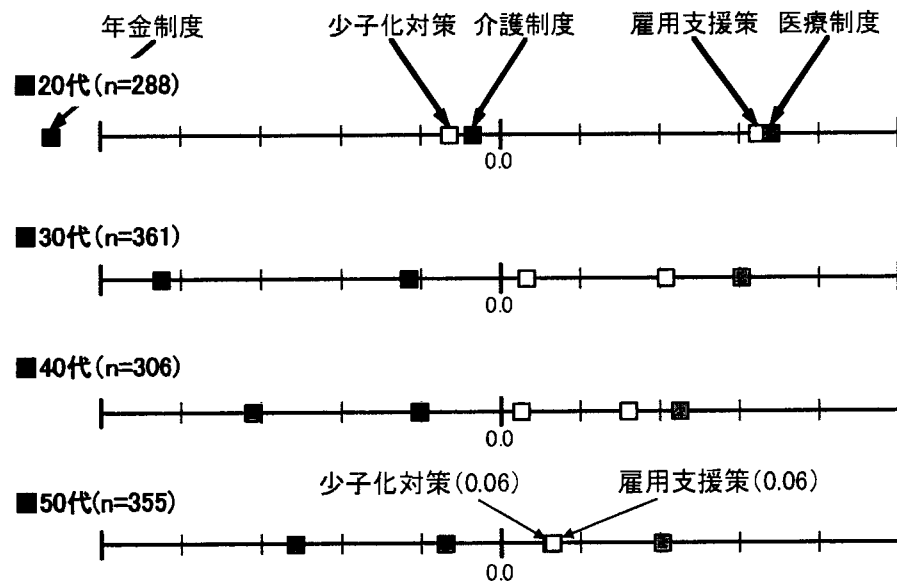
- 年代別では、50代以下と60代以上で傾向が異なる。
- 50代以下では、「年金制度」の満足度が最も低く、年代が下がるにつれ相対的な満足度が下がるのに対し、60代以上では「年金制度」の満足度が他分野に比べて高いことが特徴的。

■満足している分野\_全体(n=2,000)

<※ここでの分析手法(Web一対比較評価法)については、P22~を参照。>



26

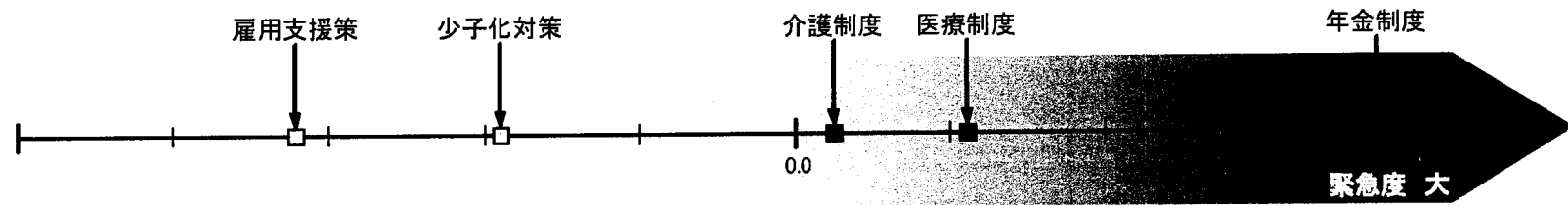


## 2-3.各制度間の対策緊急度比較 年代別

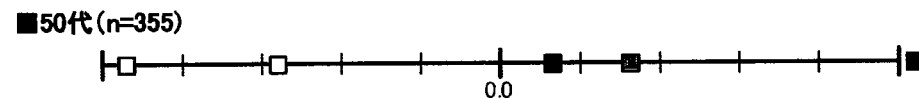
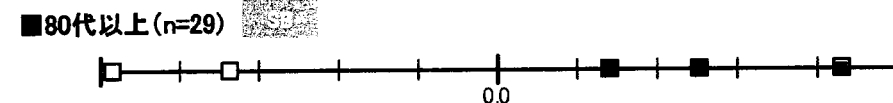
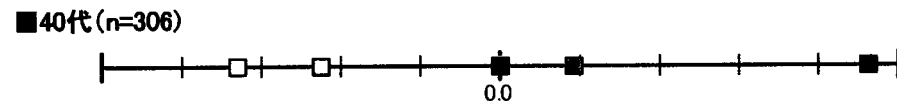
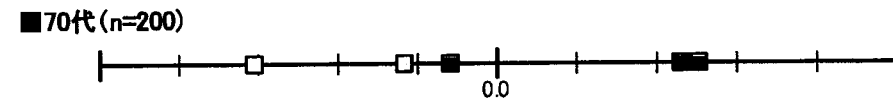
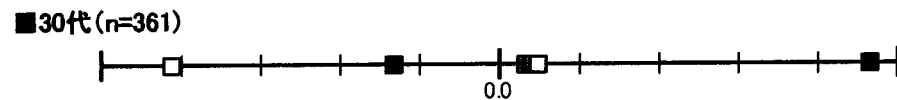
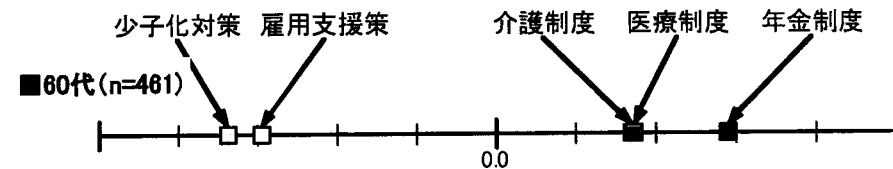
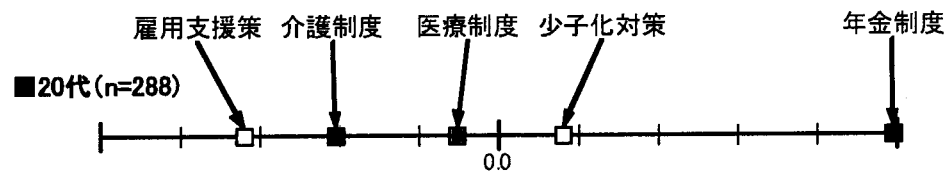
- 50代以下では、「年金制度」が緊急に取り組むべきものとして一番に挙げられている。
- 20代、30代の若年層では、「少子化対策」が「年金制度」に次いで対策が緊急に必要な分野と考えている。
- 「介護制度」「医療制度」については、年代が高くなるほど緊急に取り組むべきと考える人が多くなる。

■緊急に取り組むべき分野\_全体(n=2,000)

<※ここでの分析手法(Web一対比較評価法)については、P22~を参照。>



27

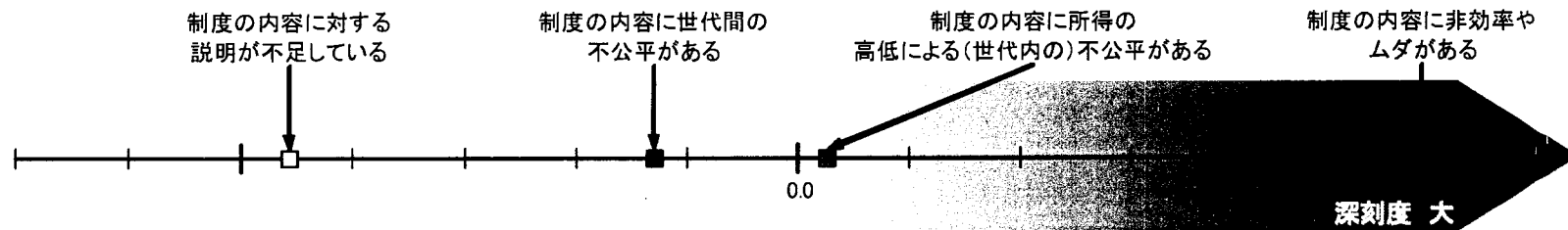


## 2-4. 社会保障制度の問題点 年代別

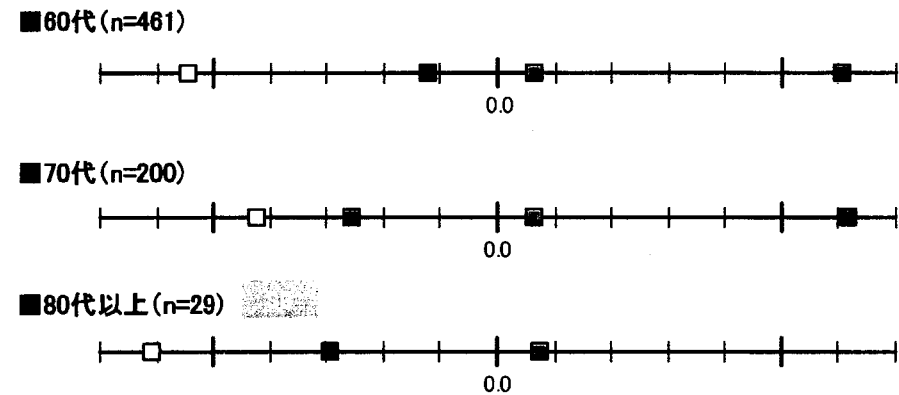
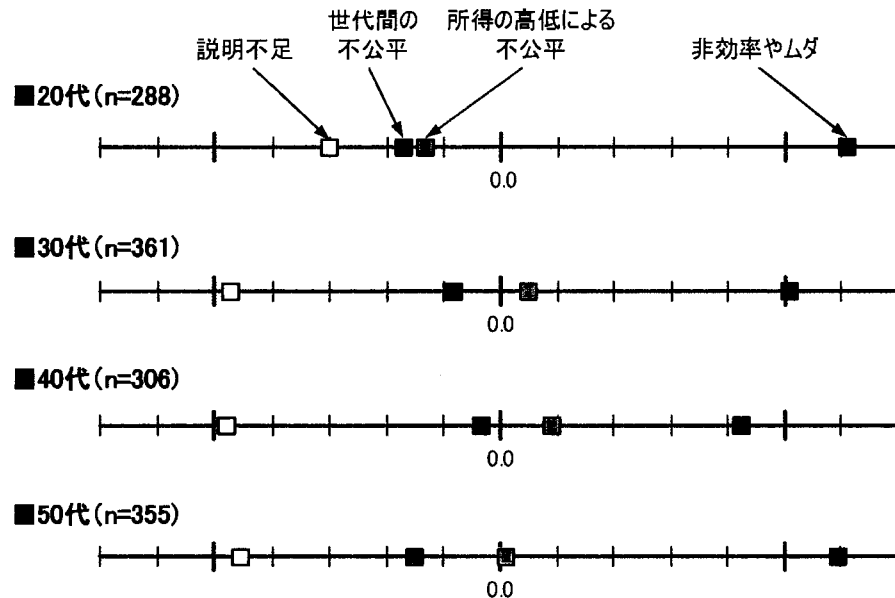
- どの年代においても「制度の内容に非効率やムダがある」と考える人が最も多く、全体と同様の順で項目が並んでいる。
- 「制度の内容に世代間の不公平がある」、「制度の内容に所得の高低による(世代内の)不公平がある」については、40代で最も深刻度が高い。

■問題が深刻である\_全体(n=2,000)

<※ここでの分析手法(Web一対比較評価法)については、P22~を参照。>

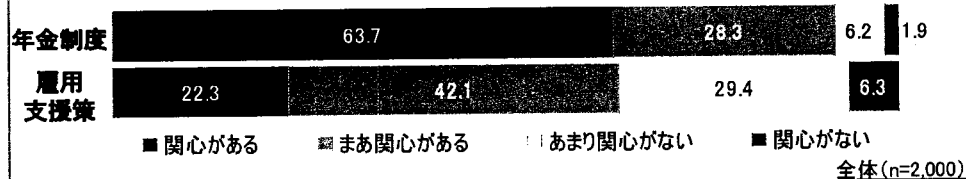


28



### 3-1. 雇用・年金制度について

#### 関心度



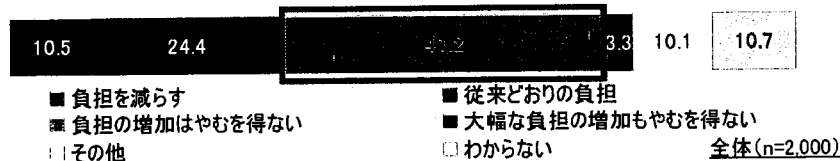
- 年金制度に「関心がある」人は64%。「まあ関心がある」人を含めると全体の92%の人が関心をもっている。
- 年代が高くなるほど関心も高くなる傾向。
- 雇用支援策に「関心がある」人は22%。「まあ関心がある」人を含めると全体の64%の人が関心をもっている。
- 女性の方が関心は高く、「関心がある」・「まあ関心がある」の合計では男性を6ポイント上回っている。
- 年代別では、20代、30代の若年層で関心が高め。

29

#### 問題点・改善点

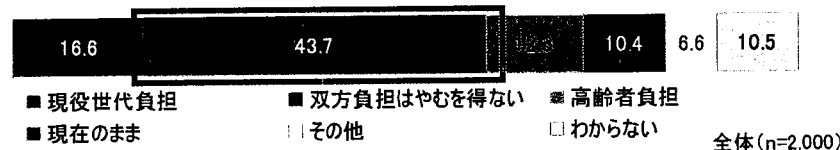
- 自由回答を大別すると「年金制度」「年金負担」「年金給付」「雇用支援策」に大きく分かれた。
- 「年金制度」に関しては、“無駄遣いを減らすべき”“年金制度の抜本的な改革が不可欠”など年金制度自体の不信感からくる意見が目立つ。
- 「雇用支援策」に関しては、まずは“雇用の拡大”“正規雇用の促進”を挙げる人が多い。その他、“定年の引き上げ”、“育児支援策の強化/女性の雇用支援”などが続く。
- “年金未払い問題の解決”を望む声も挙がっている。

#### 給付と負担のバランス



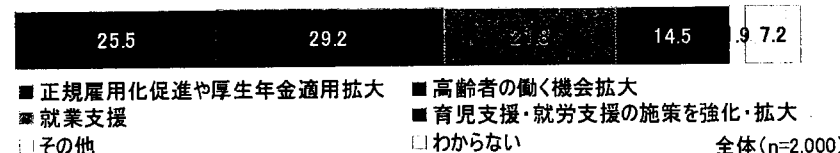
- 「給付水準を保つために、ある程度の負担増加はやむを得ない」と考える人が最も多く41%。大別すると、負担増について反対が35%、容認が45%となっている。

#### 高齢者と現役世代の負担のあり方



- 「高齢者と現役世代双方の負担の増加はやむを得ない」と考える人が最も多く44%。

#### 雇用支援策に関する優先課題

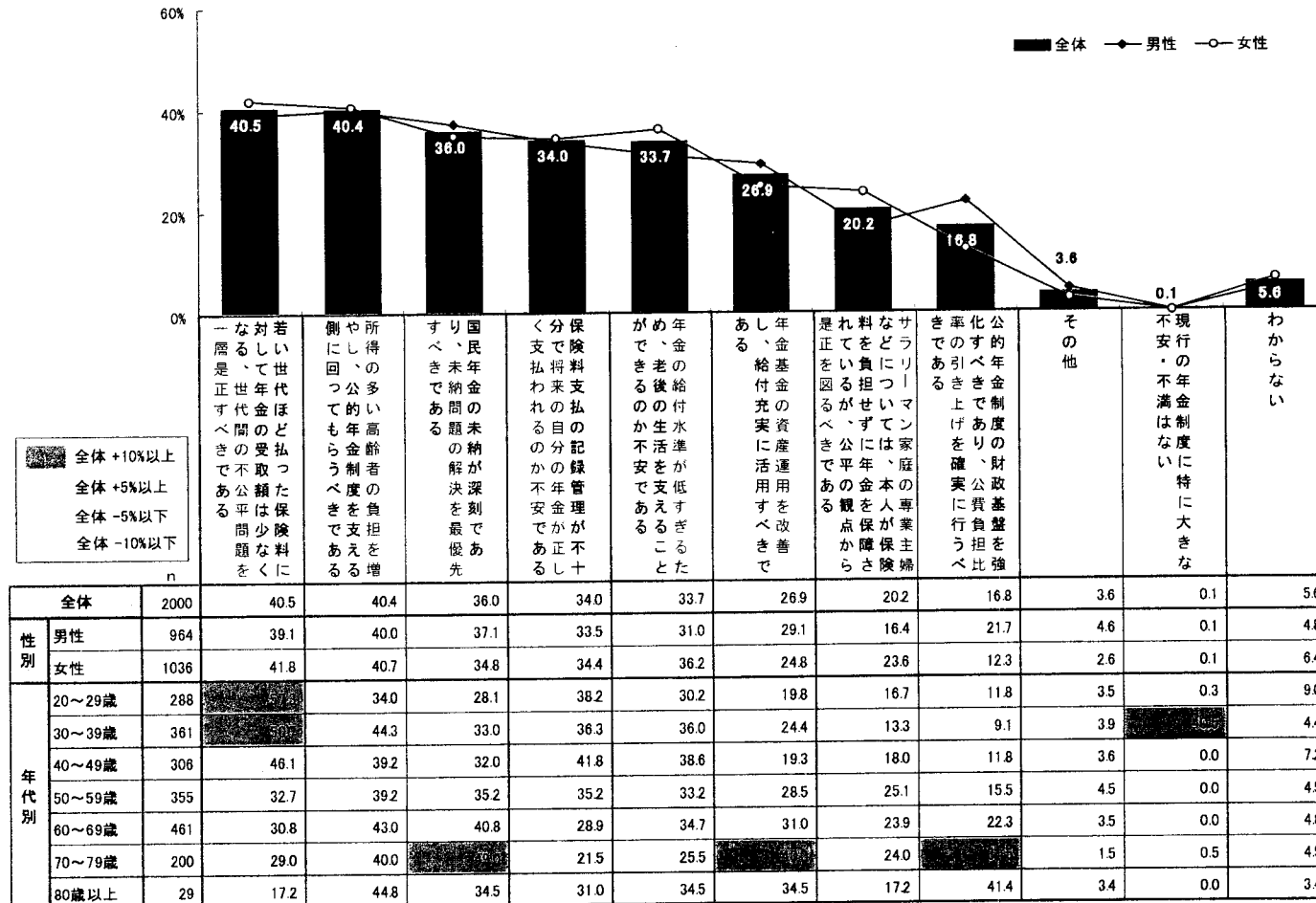


- 今後最優先すべき雇用支援策についての課題としては意見が分かれています。

### 3-2. 公的年金制度に対する意見 性別/年代別

- 公的年金制度に対する意見を確認したところ、「世代間の不公平問題を一層是正すべき」(41%)、「所得の多い高齢者の負担を増やす」(41%)など負担額の是正に関する項目が上位に挙がっている。その他、「未納問題の解決を最優先すべき」(36%)、「将来の自分の年金が正しく支払われるのか不安」(34%)などが続く。
- 性別でみると、女性は、「サラリーマン家庭の専業主婦の保険料負担の是正」を挙げる人が、男性よりも多く24%となっている。
- 若い世代ほど、「世代間の不公平問題を一層是正すべき」と考える人が多く、20代では、57%にのぼっており、70代と比べると30ポイント近く高い。

公的年金制度に対する意見(3つまで回答可) <性別/年代別>



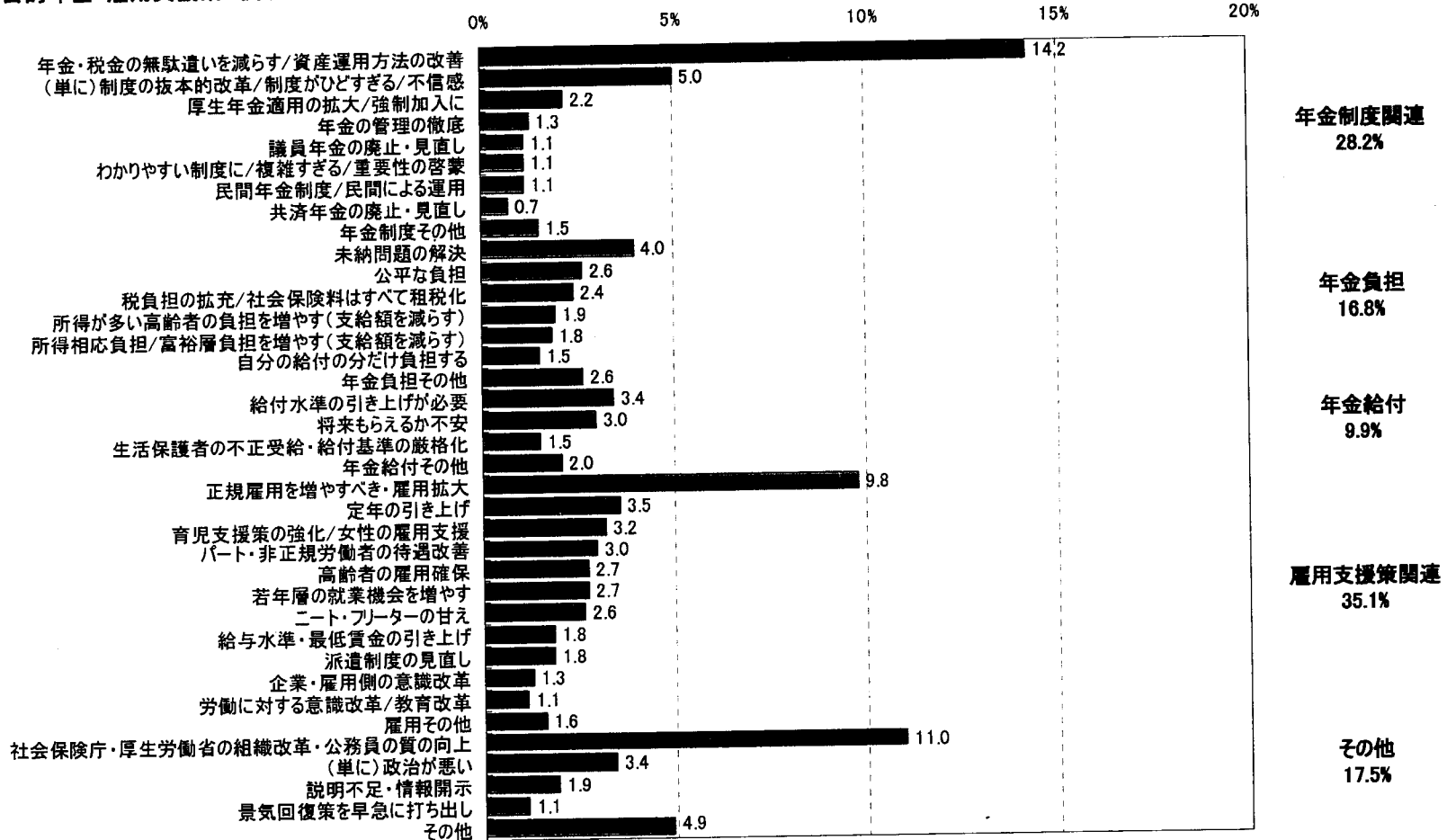
### 3-3. 公的年金・雇用支援策に関する問題点・改善点

- 公的年金制度・雇用支援策に関する問題点・改善点について自由記述で回答を求めたところ、「雇用支援策」「年金制度」に関する記述がそれぞれ35%、28%であった。
- 「雇用支援策」では、“正規雇用化の促進”を挙げる人が多く、その他“定年の引き上げ”や“育児支援策の強化/女性の雇用支援”などの回答が多くみられる。
- 「年金制度」では、“無駄遣いや無駄な資産運用の改善”を挙げる人が最も多く、“年金制度自体への不信感”なども目立っている。

自由記述での回答  
結果を定量化

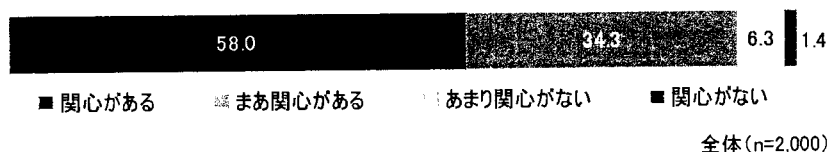
※「特になし」「わからない」を除いて集計

公的年金・雇用支援策に関する問題点・改善点\_(n=880)



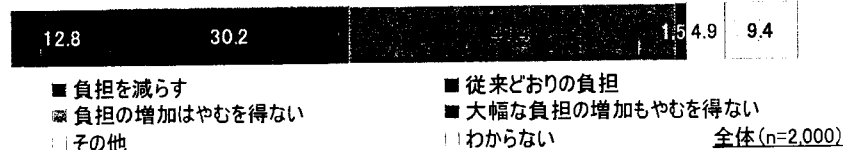
## 4-1. 医療制度について

### 関心度



- 医療制度に「関心がある」人は58%。「まあ関心がある」人を含めると全体の92%の人が関心をもっている。
- 女性の方がやや関心が高く、「関心がある」・「まあ関心がある」の合計では、男性90%、女性94%と女性の方がやや高くなっている。
- 年代別では、年代が高くなるほど関心も高くなる傾向。「関心がある」と回答した人は、20代が38%に対して、70代は82%と40ポイント以上の開きがみられ、世代間での医療制度への関心度の差が大きい。

### 給付と負担のバランス

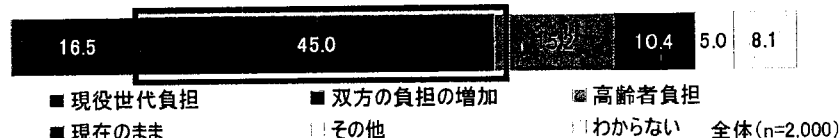


- 「給付水準を保つために、ある程度の負担の増加はやむを得ない」と考える人が最も多く41%。
- 負担増に関して、大別すると、反対が43%、容認が43%と拮抗している。

### 問題点・改善点

- 自由回答を大別すると「医師・看護師関連」「医療サービス」「制度改革」に大きく分かれた。
- 「医療サービス」に関しては、“無駄な医療”“真に必要な人が診療を受けにくい”などの他、“医療費が高すぎる”“負担が大きい”といった意見が多くみられる。
- 「医師・看護師関連」に関しては、“医師・看護師不足”を問題点として挙げる人が全体の中でも最も多く、気にしている様子。その他、“過重労働”や“待遇改善”など現場の労働環境の改善を求める声も多い。

### 高齢者と現役世代の負担のあり方



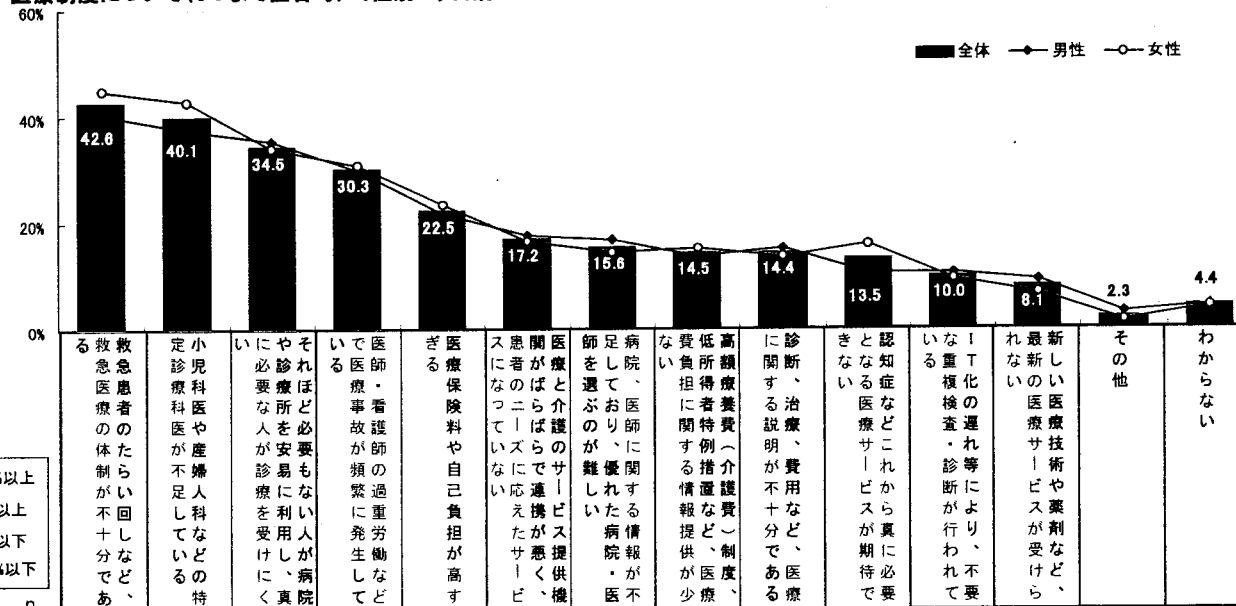
- 「高齢者と現役世代双方の負担の増加はやむを得ない」と考える人が最も多く45%。
- 現役世代への負担を求める人が17%、高齢者への負担を求める人が15%でほぼ同率となっている。



## 4-2.医療制度に関する優先課題 性別/年代別

- 医療制度に関して優先的に対処すべき課題を確認したところ、「救急医療の体制が不十分」(43%)、「特定診療科医が不足」(40%)など緊急を要する項目が上位に挙がっている。その他、「真に必要な人が診療を受けにくい」(35%)、「医師・看護師の過重労働などで医療事故が頻繁に発生」(30%)などが続く。
- 性別でみると、女性は、緊急を要する上位2項目について高めとなっている。
- 20代、30代で「特定診療科医が不足」を挙げる人が多い。また年代が高くなるほど、「医療保険料や自己負担が高すぎる」との回答が多くなる傾向がみられる。

医療制度について(3つまで回答可) <性別/年代別>



全体 +10%以上  
 全体 +5%以上  
 全体 -5%以下  
 全体 -10%以下

		n	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
全体		2000	42.6	40.1	34.5	30.3	22.5	17.2	15.6	14.5	14.4	13.5	10.0	8.1	2.3	4.4
性別	男性	964	40.4	37.3	35.2	29.7	21.5	17.6	16.8	13.8	15.2	10.6	10.6	9.2	3.2	4.6
	女性	1036	44.7	42.7	33.9	30.8	23.4	16.7	14.5	15.2	13.6	16.1	9.5	7.0	1.4	4.2
年代別	20~29歳	288	47.6	46.9	35.8	32.6	17.4	11.5	13.2	13.5	12.2	9.7	4.9	5.6	3.1	7.6
	30~39歳	361	41.3	33.0	27.7	21.1	14.4	14.7	13.3	16.6	8.9	9.1	10.2	2.2	3.3	
	40~49歳	306	41.5	38.9	35.9	32.0	21.2	15.0	16.0	15.0	10.8	14.4	8.5	6.5	2.3	5.6
	50~59歳	355	43.4	36.1	33.0	33.5	22.8	16.9	14.4	16.9	14.1	15.2	9.3	7.9	2.8	3.7
	60~69歳	461	40.8	33.6	36.7	29.3	25.8	21.5	15.2	12.1	14.8	17.1	14.1	8.9	1.5	3.5
	70~79歳	200	42.0	37.0	33.5	26.5	24.5	22.0	20.5	18.0	19.0	15.0	12.0	7.5	2.0	3.5
	80歳以上	29	44.8	31.0	17.2	20.7	31.0	31.0	34.5	17.2	13.8	6.9	17.2	13.8	3.4	0.0